

## 情報サイト・相談窓口はこちら

### Case 1 がん検診のこと

#### どこで受けられるの？

がん検診は、お住まいの市町村で受けられます。費用には市町村の補助があり、少ない自己負担で受けることができます。働いている人は職場で受けられる場合もありますので、職場の担当者にご確認ください。

病院を探す [がん情報センター 検索](#) → 国立がんセンターがん情報サービス

和歌山 [二次予防\(がん検診\) 検索](#) → 和歌山県ホームページ

### Case 2 病気のこと

#### 思いもよらぬ「がん宣告」・・・分からないことばかり

自分の病気と治療法について正確な知識をもつことは大切です。

知っておきたいがんの基礎知識 [検索](#) → 国立がんセンターがん情報サービス

それぞれのがんの解説 [検索](#) → 国立がんセンターがん情報サービス

わかやまがんネット [検索](#) → 和歌山県ホームページ

### Case 3 治療費や生活費のこと

#### お金のことは相談しづらい・・・がんの治療ってどれくらいかかるの？

医療費や生活費など経済的な困りごとに公的な助成や支援制度を活用できる場合があります。

お金と生活の支援 [検索](#) → 国立がんセンターがん情報サービス

がん制度ドック [検索](#) → がんと暮らしを考える会

### Case 4 仕事と治療の両立のこと



#### 仕事続けたいけど迷惑かけてしまうのかな・・・

入院期間や外来治療などの治療スケジュールを詳しく確認し、作業者と会社の関係者がよく相談し、仕事との調整をしましょう。

がんの仕事のQ&A [検索](#) → 国立がんセンターがん情報サービス(個人向け)

事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン [検索](#) → 厚生労働省(事業所向け)

会社と主治医間の情報連絡シート 滋賀県 [検索](#) → 事業場と主治医に復職に関して配慮事項などの意見を聞きたい場合

会社の両立支援体制を整えたい場合 → 和歌山産業保健総合支援センターへお問い合わせ(073-421-8990)

# 和歌山県の事業場における がん対策推進ガイド

## がん検診の受診勧奨と、 がん治療と仕事の両立支援は人財思いです

国内では毎年約100万人が新たにがんと診断されており、一生のうち2人に1人ががんに罹り、その3人に1人が就労世代です。

会社にとって人は最大の資産であり、早期発見・早期治療のためのがん検診の受診勧奨、治療と職業生活の両立支援が不可欠です。本ガイドは、「和歌山県におけるがん患者の療養と職業生活の両立支援のための実態調査」において実施した事業場調査の結果をふまえて、事業場におけるがん対策推進のために作成したものです。

### 調査結果の概要

#### がん検診

がん検診を実施または受診勧奨している事業場は45%であった。がん検診の種類をみると、胃がん(32%)、大腸がん(28%)、肺がん(21%)、乳がん(27%)、子宮がん(24%)が多かった。

#### がんに罹患した従業員の治療と職業生活の両立支援

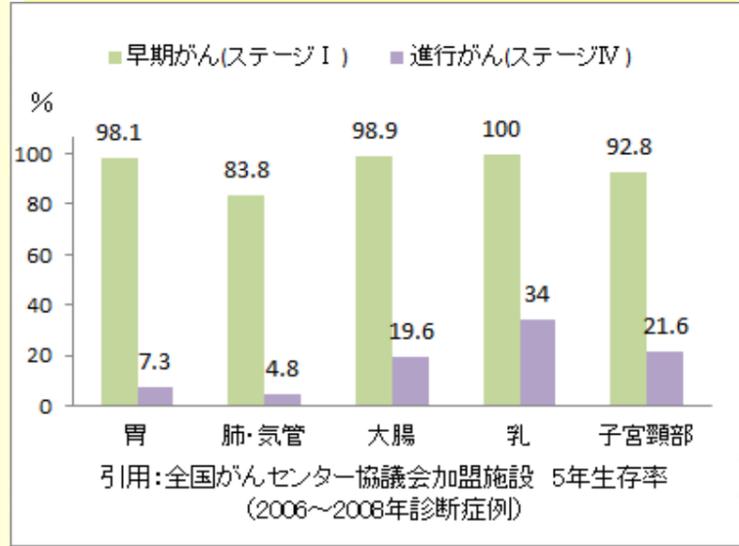
治療しながら働く従業員のために何らかの支援制度がある事業場は20%であった。行われている具体的な制度を見ると、復職支援制度では、「メンタル不調者の復職支援(復職プログラム)」(69%)が多かったが、「がん患者の復職支援」(43%)は少なかった。勤務支援制度では、「有給休暇以外の休暇制度(66%)」と「通院等のための時差出勤・退社制度(46%)」が多かったが、「時間単位の有給休暇制度(37%)」が行われている事業場は少なかった。

万が一ではありません。  
2人に1人です

## 進行がんになる前に

### がん検診

多くのがんは、早期発見すれば約9割が治ります。がん検診を受診しましょう。



## 会社の理解と支援が重要です

### 会社の社内体制・職場づくり

がんの早期発見・早期治療のためにがん検診の受診勧奨をしましょう。

がん治療やそれに伴う症状はさまざま、個別対応が必要です。就業に関する配慮事項を医療機関に確認して欲しい場合は、その旨を作業者に伝えましょう\*。休業や復職についての就業規則を設けたり、運用上工夫したりして、支援しましょう。

\*医療機関との連携用に滋賀県の  
〈会社と主治医間の情報連絡シート〉  
があります。下項参照

異常なし→気になる症状が出れば検診を  
待たずに受診しましょう



がんと診断されたら

仕事はすぐにやめないで  
病気をよく知ろう  
主治医に仕事のことを相談しよう

すべては

自分らしい生活と

大切な人の笑顔のために



仕事も続けるために



## がんのことをよく知る

### がんの知識

がん治療法の大きな柱は、手術療法、薬物療法、放射線療法の3つです。2つ以上の治療法を組み合わせる場合もあります。また免疫療法が、新しい治療法として期待されています。がん治療法の発展により、5年生存率は60%を超え、長期生存が可能な疾患へと変化しています。



支えてくれる人や仕組みを見つけよう

### サポートするひと

がんを治療し、療養生活を送る人を支える人や仕組みはたくさんあります。主治医・看護師・緩和ケアチーム・臨床心理士・がん相談支援センター\*の担当者が、あなたの困りごとに応じてチームでサポートします。まずは、困っていることを気軽に相談してみてください。

\*がん相談支援センターとは  
がん拠点病院と推進病院に設けられています。治療にかかる経済的な負担や担当医に聞けなかったことなど、さまざまな質問や相談に応じています。